平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ２０５ ※記入不要	提案機関名	畜産課　畜産振興班

要望問題　鶏に与えるストレス軽減を考慮した強制換羽の実施方法

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

背景　強制換羽は、一定期間を経た採卵鶏に不可避的に起こってくる産卵率・卵質の低下に対して人為的に換羽を促すことでその向上を図ろうとする手段として実施されてきたが、最近では強制換羽の実施が鶏に過度のストレスを与えることで疾病への抵抗力の低下等が危惧されるなど、その実施が避けられている状況がある。

一方、低卵価が常態化した昨今の情勢の中では、産卵能力の低下した鶏群の再活用を図る強制換羽の経営的な有効性が再認識されるべきであり、鶏に与えるストレス軽減を考慮した強制換羽の実施方法を検討し養鶏経営の一助とする。

内容　強制換羽の開始時期や回数、体重減少の目安、絶食・絶水期間等により試験区を設定する。判断の指標としては、期間中のへい死率や卵重、卵殻強度、卵殻厚、卵殻卵重比、ハウユニット等を用いて、各試験区を評価する。

対象地域　畜産研究所の飼養鶏(検定試験の終了鶏)

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産研究所
部　　署：	畜産工学部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

対応の内容等

ストレスのより少ない強制換羽方法については、５～７日間程度の短期間絶食法やこれを反復する方法等が検討されてますが、ストレスが少ない反面、効果の持続時間も少なくなり、効果の面からみれば、現状では従来の絶食法が一番よい方法であると思われます。

強制換羽を行う際は、鶏にストレスが加わることから疾病発生のリスクを伴うこととなりますので、事前にワクチネーション等の衛生対策を済ませ、実施中は鶏をよく観察して病気の発生に注意することが重要です。

一方、最近の知見としては、兵庫県での報告によると制限給餌（維持熱量 70 %飼料、15 日間給与）による方法（日本家禽学会、2004 年春期大会）が、また、米国での報告によると小麦フスマ飼料（CP14.3 %、ME1,900kcal 飼料）を 4 週間給与する方法（Poult.Sci.2003.82）が従来の絶食法と比較して遜色ないとされています。当所としては、これらの絶食しない方法について実証という形でデータ収集し情報提供したいと考えています。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	